

シンボルマーク

平井資嘉寿

ら次へと広がり、大きな輪となり、好結果を招いたものと確信致しております。

今回は十月十八日(日)に「第三回森とせせらぎ祭り」を行う予定です。過去の反省の上に立って、「子ども未来、地域ふれあい、水と緑の街づくり」の主旨を見つめ直し、参加する喜び、賛助協力の喜び、人々の喜びを自分の喜びと思える様な、より充実した温もりのある祭りにしたいものと考えておりますので、関係者各位のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

平谷倭文乃

森とせせらぎ・はがき絵教室も、日を増す事に地域の皆様との交流が深まり、描く事が楽しみになつて来ました。皆様は、描く常々良心から描いてみようという気持ちで始められ、今では見慣れた風景や草花も愛着が湧き、見る目も変わつて来たと話されています。三月に開催された、井田郵便局での仲間展では、日頃の力量を発揮され、観想ノートには嬉しいメッセージも書かれました。



☆ 皆さんのひととき
に、触れたい心が
出来、脳の中はわ
なやか、風が吹
きまじな。素難
な贈り物を、主
う。井田主婦
☆ 散歩のひと
時、お宝に
ホッとした
います。有難う
ごさ

ネット事務局長

田辺勝義

佐藤克明

ま　　し　宅　作　で　が　オ　ま　変
す　　と　を　を　曲　す　選　わ　わ
。　　い　を　も　家　ば　ら　ず　つ
。　　と　を　ら　に　に　れ　市　一
。　　そ　呼　い　に　の　内　昨
。　　の　び　く　に　の　台　年
。　　日　か　演　そ　本　オ　十
。　　一　け　大　も　小　ラ　月
。　　分　場　き　の　小　の　ユ
。　　間　返　と　れ　生　上　ト
。　　の　な　こ　団　の　子　レ
。　　歌　こ　地　の　ど　も　ヒ
。　　手　ろ　の　の　あ　も　ト
。　　が　あ　の　の　も　二　あ
。　　が　り　の　の　書　三　り
。　　中　ま　に　ん　い　け　け
。　　心　し　に　住　せ　た　た
。　　で　訪　民　ん　作　若
。　　す　ね　し　に　曲　自　台
。　　で　か　人　に　曲　曲　本
。　　り　ね　か　ら　ほ　曲　本

観客は別の曲を聞かすために、団地の
あちこちを訪ね歩きます。オペラを身近
に感じながら、コミュニケーションを
盛んにロケットのように祭民の移住者が
増えて、どこかの地域もいろいろな問題
を抱えて、どうしようもない問題が大
きな課題です。そして、人たちはオペラに
があまりきません。若い人たちはオペラを
心から意識し、観客が取り組んでいます。
それらに意図的、伝説的な芸能ではないで
す。私たちの祭があるのではありません。示唆
するものがあつた。

7 連是付ま投一編
 6 絡非成に稿森集
 6 先まにをとおと係
 1 4 事し待はせり
 5 4 務下おち皆ら
 3 局さ気し様の
 1 等々内容にい
 5 等々内容にい
 田

四月十九日(日)	市民公益活動	四月十九日(日)	市民公益活動
プレゼン	高津市民館	プレゼン	高津市民館
通月 絵手紙展	せせらぎ管理棟	通月 絵手紙展	せせらぎ管理棟
五月通月	中谷俊文	五月通月	中谷俊文
写真展	せせらぎ管	写真展	せせらぎ管
理棟	稲本文雄	理棟	稲本文雄
六月二十一日(日)	美化、清掃	六月二十一日(日)	美化、清掃
及び観察会	田辺勝義	及び観察会	田辺勝義
七月十六日(日)	第二回せせらぎ東屋	七月十六日(日)	第二回せせらぎ東屋
せせらぎ燈籠流し	せせらぎ東屋	せせらぎ燈籠流し	せせらぎ東屋
周辺	田辺勝義	周辺	田辺勝義
通月 俳画展	せせらぎ管理棟	通月 俳画展	せせらぎ管理棟
せせらぎ管理棟	中谷俊文	せせらぎ管理棟	中谷俊文
十月十八日(日)	第三回森とせせらぎ	十月十八日(日)	第三回森とせせらぎ
せらぎ祭り	せせらぎ全	せらぎ祭り	せせらぎ全
棟	松本浩次郎	棟	松本浩次郎
通月 絵手紙展	せせらぎ管	通月 絵手紙展	せせらぎ管
十一月十五日(日)	中谷俊文	十一月十五日(日)	中谷俊文
調査研究観	田辺勝義	調査研究観	田辺勝義
通月 菊会展	せせらぎ管	通月 菊会展	せせらぎ管
せせらぎ管理棟	平井資嘉寿	せせらぎ管理棟	平井資嘉寿

め、と再認識しました。努力が
だ、と認めた。学校などの
維持・生活を行っていた活動には感
心の秋に三浦半島に見学に行ったこ
と思つています。多摩川水辺の
学校の話は行事毎に100名も
楽校を集めてその秘訣はすいなど
感心しました。その秘訣は餅つ
ときや楽ししたことしなうするこ
と、これは学びたい。

十二月中旬 井田山健康の森
事に参加 小須田和昭
田辺勝義
稲本文雄

通月 写真展 せせらぎ管理棟
【二千年】
二月十一日(休) 第二回森と
せせらぎシンポジウム
国際交流センター

三月十五日(日) 美化のためのの
準備会 せせらぎ遊歩道
佐藤克明・田辺勝義

三月二十九日(日) 田辺勝義 定期総会
田辺勝義・千々和みどり
十日(三十一日) 森とせせらぎ
絵手紙仲間展 井田郵便局
(記名は担当者) 中谷倭文乃

(現代漢詩紹介) 月刊春秋より
孟夏作 秋柳 伊藤富士江
庭樹扶疎(ふそ)として翠(みどり)
落花歸(へ)てきらと欲す
簾花歸(へ)てきらと欲す
詩成つて一刻新茗を啜(すす)れば
蕪風(とうふう)に揺動(ようどう)として
扶馬(ふば)に揺動(ようどう)する




庭樹扶疎(ふそ)として翠(みどり)
落花歸(へ)てきらと欲す
簾花歸(へ)てきらと欲す
詩成つて一刻新茗を啜(すす)れば
蕪風(とうふう)に揺動(ようどう)として
扶馬(ふば)に揺動(ようどう)する

孟夏作 秋柳 伊藤富士江
庭樹扶疎(ふそ)として翠(みどり)
落花歸(へ)てきらと欲す
簾花歸(へ)てきらと欲す
詩成つて一刻新茗を啜(すす)れば
蕪風(とうふう)に揺動(ようどう)として
扶馬(ふば)に揺動(ようどう)する